伝えたい

まちの遺産

古代の駅家・淑羅駅を考える

七世紀末頃、律令国家は地方支配のため都と地方を結ぶ交通網の一つとして北陸道を建設。当時は官吏や勅使が往来する官道として国家の支配下におかれ、三十里（約十六キロ）を基準に駅家が設置されていました。

平安中期の法令集『延喜式』によると越前国には八駅が設置され、松原駅、鹿蒜駅に続く三番目に「淑羅駅」の名がみえ、続いて阿味駅、丹生駅となっています。駅の所在地については諸説があり、日野川を古くは叔羅川と書き「シクラガワ」「シラキガワ」と読んだことから、淑羅駅は鹿蒜駅（南越前町南今庄付近）から丹生駅（越前市丹生郷町付近）までの日野川流域に比定されています。書を引けば、『淑』は「美しい」「しとやか」を表し、『羅』は「薄絹」「連なる」を表すなど、淑羅は美しく淑やかな景観が連なった地域を形容した地名と思われます。日野川流域で風光明媚なところといえば必然的に日野山があげられ、より良い形が眺められる範囲となると、越前市南端から湯尾あたりに限定され、さらに、日野川流域という立地から洪水に強い台地で、経済的に駅家を支える駅田が必要になります。これらのことから、淑羅駅を南越前町「大道」付近に想定し、次は西大道・東大道に残る大字・小字の中から検討していきます。

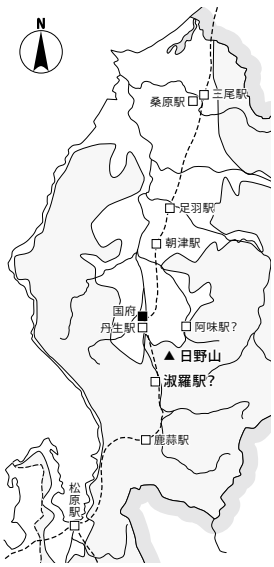
①駅家推定地では「大道」の地名が多くみられ、阿味駅（越前市五分市町）や近江国の鞆結駅（滋賀県高島市マキノ町）にも「東大道」「西大道」の字名が残る。

②西大道の三字「御所ヶ谷」は、親王の御座所があったと推定。

③駅家にふさわしい小字として、西大道では五字「上（神）谷」、十字「大谷」、七字・八字「下油田・上油田」、東大道では四字「弓射田」、十字「城兵頃」、十二番「矢部」、十九字「茶ノ木原」が残る。

以上の地名や地理的条件から、西大道の台地「上谷」「大谷」を駅家と比定したいと思います。この付近は古代、日像菩薩様が日蓮宗布教の際、日野山のあまりの美しさに驚嘆、越前富士と申されたとも言われています。また、『淑羅河の岸辺』を書かれた柴田知明先生は、日野山を「群山を従えて美しくそそり立つ稜線の肩に朝日の輝き上るを仰いでは一日の幸いを祈らずにはいられなかった」と記されています。古代の人々もこの台地からの美しい眺望を駅家に求めたのではないでしょうか。

（南越前町文化財保護委員　加藤義弘）



越前国の駅家推定地

～和の風～　町長随想

増澤　善和

安全・安心の町

平成十七年十一月、越前警察署が中心となって「日本一安全安心な越前市・南越前町まちづくり運動」を宣言してから二年が経過した。南越前町は安全安心の町となったか、昨年の平成十九年を振りかえってみる。

※（　）は昨年との比較

①犯罪発生と検挙

平成十九年中の当町の犯罪発生（ほとんどが窃盗犯）件数は五十六件（十件減）、その検挙件数は二十七件（十六件増）である。発生件数は減少し検挙件数は増加と良い傾向である。検挙率48％は少し気になる。

②振り込め詐欺事件

町内での振り込め詐欺被害者は一件・十万円だが、被害一歩手前が四件あった。越前警察署管内（以下管内）での被害者は五件・六百万円で当町を含め全部高齢者だった。偶然にも本書を書いている今日（一月十五日）、私の娘にも「裁判所通達」の葉書が届いた。その概要は「起訴されて裁判所から出頭命令が出る。不出廷ならば財産・給料は差し押さえ。詳細は電話で。電話連絡のない方は本書を勤務先に送る。」最後に「裁判取り下げ期日・一月十五日（今日）」とある。親が見るとビックリして電話する場合もあるだろう。

③少年の犯罪と不良行為

ほとんどが高校生なので、当町だけのデータはない。管内で見ると、少年犯罪・不良行為件数は五百六十六件（二百十四件増加）と多いのが不安である。

④交通事故

当町内で総交通事故二百二十六件（二十九件減）、人身事故四十七件（一件減）だが、死亡事故十九歳と八十七歳の二人と悲しい結果である。県内の死亡事故者も六十五歳以上の高齢者に多く、六十人中三十八人（63％）管内では六人中四人（67％）である。

⑤火災発生

昨年中に町内で発生した火災は、建物三件（二件減）、車両二件（前年同）であった。私達行政と、安全安心関連団体の更なるご努力と、町民の皆様のご協力をお願いいたします。